

「外国語」新設で授業時数増 (小学校)

詰め込み加速「次期学習指導要領」

中央教育審議会(中教審)は、2020年度より小学校から順次全面実施される次期学習指導要領を、2017年の3月までに確定・公表する予定です。

教育の目的は

「人財育成」?

8月にだされた「審議のまとめ」は、改悪教育基本法を全面的に具体化する最悪の内容になっています。そして、「人格の完成」をめざすという教育の目的を、「グローバル化」や「情報化」に勝ち抜く国家や財界の戦略に沿った「人財育成」、「戦争する国」を支える「人財育成」に変質させる観点から、学習指導要領を改訂するよう求めています。どちらの「人財育成」も「愛国心」や「道徳心」が必要不可欠であり、そのために教育を利用しようとしています。

想像を絶する詰め込み教育、30年前に逆戻り

今回の改訂では、特に小学校では授業時間数の増加、中学校では外国語等で内容の増加が見られます。

小学校においては、外国語活動が中学年から開

始されること、外国語が教科として新設されること、4年生以上は中学校の標準授業時間数と同じになります。クラブ、委員会等を組み込めば、

小学4年生以上は毎日6時間の時間割になり、時間数が増える3年生は、一週間のうち、4日間6時間になります。小学校では、究極の詰め込み教育との批判が高まり、白紙撤回運動にまで発展した、1989年学習指導要領と同様の時間数です。

また、指導すべき内容も増加します。国語では、都道府県名を漢字で書けるようにするため、「渦」「媛」「縄」等、20字を新たに加え1026字になります。ただでさえ多い漢字をさらに増やすことは、子どもに新たな負担を押し付けるものでしかありません。

小学校の外国語をめぐっては、早期化、教科化の中で、教員研修の問題もはらんでいます。英語指

導は入門期が最も難しいとされているにもかかわらず、現在の小学校現場で英語の教員免許を持っている人の割合は、わずか5%です。教科化にあたって教員研修を行う

とすれば、莫大な予算が伴うことに加え、何より多忙化が進む中で研修を増加させ、教員の業務負担が増加することは大きな問題です。私たちは、指導要領の

改訂内容が真に子どもたちのためになるかを見極め、子どもと教育を守るために声をあげていくことが求められています。

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	6年間合計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	—	—	70	90	100	105	365
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	—	—	90	105	105	105	405
生活	102	105	—	—	—	—	207
音楽	68	70	60	60	50	50	358
図画工作	68	70	60	60	50	50	358
家庭	—	—	—	—	60	55	115
体育	102	105	105	105	90	90	597
道徳	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合	—	—	70	70	70	70	280
外国語活動	—	—	35 (+35)	35 (+35)	—	—	70 (+70)
外国語	—	—	—	—	70 (+35)	70 (+35)	140 (+70)
学年合計	850	910	980 (+35)	1015 (+35)	1015 (+35)	1015 (+35)	5785 (+140)

中学年からの外国語活動と、外国語の新設による増加



4年生以上は、中学校と同じ標準授業時間数に！！

中学校	1年	2年	3年	3年間合計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
総合	50	70	70	190
学年合計	1015	1015	1015	3045